

自己評価項目一覧

—園長編—

2024年度

苫小牧聖ルカ幼稚園

<評価基準> A おおむね良い B 普通 C 改善を要する

評価分類		内容	評価
B I 教育内容	1 保育の計画	① 建学の精神に基づき教育理念や教育目標を明文化している	A
		② 教育課程は教育理念に基づき、教育要領の精神を踏まえて編成している	A
		③ 社会状況や幼児の実態、地域性などを考慮し必要に応じて教育課程の見直しを行なっている	A
		④ 幼児の生活が豊かになるように行事を精選し、幼児の発達を踏まえて、その内容や実施の仕方について見直しを行なっている	A
	2 教職員体制の充実	① 教職員が園の教育理念や教育方針を共通理解するための取組みを行なっている	B
		② 指導計画が教育要領、教育課程、幼児の実態に即したのものになっているかを把握し、指導助言できる体制をつくっている	B
		③ 教師が上級免許や他の資格を取得したり、教員免許の更新をしたりする機会を確保している	A
	3 指導の在り方	① 環境を通して行う幼稚園教育の特質を理解し、発達の道筋を見通して教育的価値のある環境を計画的に構成している	A
		② 幼児の主体性と教師の意図とのバランスを考慮しながら、幼児が主体的に活動できる環境構成している	B
		③ 幼児とのかかわりのなかで信頼関係を構築するよう努める。安全で心地よく過ごすことができる環境を整えている	B
		④ 幼児一人ひとりの発達の特性に応じた指導を行なっている	A
		⑤ 教職員全員で一人ひとりの幼児を育てるという視点に立って、教職員間の共通理解と協力体制を築き、指導を行なっている	A
		⑥ 遊びを通しての総合的な指導を行なっている	A
		⑦ 障がいのある幼児に対して、家庭や関係機関と連携しながらその状態に応じた指導内容や指導方法の工夫をしている	A
		⑧ 子どもの発達と学びの連続性を確保するため、幼稚園と小学校との連携を図っている	A
	4 研修や研究	① 教育内容の質の向上や改善のため、園内研修を企画し行なっている	A
		② 教師の資質向上のために、公的機関などが開催する研修会などに参加する機会を確保している	A

			③ 個々の教師が自分の課題を把握し、その課題が達成できるような指導体制をとっている	B
Ⅱ 地域の幼児 教育センタ ーとしての 役割	1	子育ての支援	① 子育ての支援のために、未就園児の親子登園や子育て相談、情報の提供などを実施している	A
			② ささまざまな教育に関する相談を受け入れている	A
			③ 子育ての支援に当たって、児童相談所や病院などの専門機関に相談や連携ができる体制を整えている	A
	2	預かり保育	① 教育課程に基づく活動を考慮したうえで預かり保育の内容を検討し、計画的に行なっている	A
			② 預かり保育を担当する教師の体制を整えている	A
Ⅲ 安全管理	1	外部侵入者・来訪者などに対する安全対策	① 幼稚園施設整備指針に基づき、適切な防犯体制を整えている	A
	2	施設・設備・園児に対する安全対策	① 地震などの自然災害に対する防災対策を整えている	A
			② 幼稚園設置基準を踏まえ、施設設備の安全管理に努めている	A
			③ 消防法を踏まえ、消防計画を作成し実施している	A
			④ 防火管理者を定めて防火管理を行っている	A
			⑤ 設備や遊具の点検を定期的に行っている	A
	3	衛生管理	① 幼稚園設置基準を踏まえ、衛生管理に努めている	A
			② 学校保健法を踏まえ、保健安全計画を作成し実施している	B
			③ 学校保健法を踏まえ、園児及び教職員の健康診断を実施している	A
			④ 学校保健法を踏まえ、伝染病予防や発生に対応している	A
⑤ 学校保健法により、学校医、学校歯科医、学校薬剤師を置いている			A	
Ⅳ 人事管理	1	園の教育目標達成のための人事	① 幼稚園設置基準を踏まえ、園の教育目標が達成できる人事を行っている	A
			② 幼稚園設置基準を踏まえ、個々の教職員が自己評価などに努めている	A
	2	教職員の雇用条件	① 労働基準法に基づいた労働条件を整備し、明示している	A
			② 私立学校教職員共済法を踏まえ、教職員の福利厚生に努めている	A
	3	就業規則に基づく労務管理	① 労働基準法に基づいて就業規則を作成し、行政官庁に届け出ている	A
	4	教職員の健康管理	① 学校保健法に基づき、毎年、教職員の健康診断を実施している	A

V 財務管理	1	予算作成及び予算管理	① 学校法人会計基準に基づき、予算書を作成している	A
			② 月次で予算管理を行い、補正予算が必要な場合は理事会の承認を得ている	A
	2	決算	① 学校法人会計基準に基づき、会計処理を行うとともに財務計算に関する書類を作成している	A
			② 決算は公認会計士の監査を受け、適正であることの証明をつけて監督官庁に届け出ている	A
3	納付金算定	① 園児納付金の算定に関しては、算定根拠をしっかりともち、外部に説明できるようにしている	A	
4	物品購入	① 教材などの在庫は種類・量共に、適切に管理している	A	
VI 評価と情報の公開	1	評価	① 重点目標とそれを達成するために必要な評価項目を定めて自己評価を行っている	A
			② 自己評価の結果や分析、それを踏まえた今後の改善方を自己評価の結果報告書にまとめている	A
			③ 学校関係者評価委員会を設置し、自己評価の結果について学校関係者評価を行っている	A
	2	情報の公開	① 幼稚園設置基準により、教育活動その他の学校運営の状況について、積極的に情報を提供している	A
			② 公開する情報の中で、個人情報とされるものについては保護されるようにしている	A
			③ 自己評価の結果を公表している	A
			④ 学校関係者評価の結果を公表している	A
			⑤ 幼稚園幼児指導要録の抄本・写しを小学校に送付し、情報の共有と相互理解を図っている	A

2024年度 自己評価（園長編）の結果及び改善策

I 「教育内容」についての評価結果及び改善策

- ・コロナウイルス感染が5類になったことで、制限緩和により様々な行事等取り組みやすくなった。また、日常的に子どもたちの主体的な活動に重点を置き、日々一つ一つの活動において自ら考えたり決断したりする機会を増やし、それに伴う環境設定にも努めた結果、子どもたちの心身の成長がより実感できるようになった。また、子どもたちの成長した先の姿を明確にイメージしながら、そのための工夫に時間を割くことは保育者としてのやりがいにつながっていると感じている。
- ・一人一人が異なる思考や価値観をもっていることを前提に、それを理解し、共有して関わることでたくさんの可能性を生み出し、限られた正解ではない多くの正解をみんなで共に喜び合う保育は、子どもたちの自信や達成感の獲得、お友達の喜びを自分のことのように共有することができる心を大切にしていきたいと考えている。また引き続き、多様な社会で生き抜くために必要な力、自分で考えて想像（創造）し行動する力、個々の多様性も認める心の育みを大切にする教育と保育の推進に努める。
- ・毎年、どうしたらよいのか悩みと感している一つが保育参観日程。2・3号認定園児増加傾向の中、(行事等も含め)土曜日開催は翌週平日園児が最も多い時に職員の代休が必要となる。平日開催は就労する保護者が休みを取りづらいという現状の中でも、保育参観を求める多くの声に応えられるよう十分検討しながら実施していきたい。
- ・幼稚園色が強いという印象を持たれている点で、今一度、施設の役割について確認していく必要はあると感じている。家庭と連携できるところはしっかり協力し合っていきたい。
- ・園の理念や方針を保護者に具体的に示し、理解を深めてもらう努力も必要と感じている。

II 「地域の幼児教育センターとしての役割」についての評価結果及び課題

- ・1号認定園児獲得のために、今年度は地域開放の子育て支援事業「ひだまり広場」（未就園児0歳～3歳児対象）に力を入れ、毎回多数の親子参加があった。そこからプレスクールや入園に数組つながったことは良かった。次年度も今年以上に充実化を図っていきたい。
- ・地域に根差した幼児施設を目指し、今年度は近隣の高齢者施設を訪問して、歌や手遊びなど一緒に行いながら交流することができた。
- ・環境保全活動として周辺のごみ拾いはできなかったもので、次年度は計画的な取り組みとしていきたい。

III 「安全管理」についての評価結果及び改善策

- ・送迎バス3台全てに置き去り防止安全装置設置し、1台は窓をクリアガラスに取替。
- ・施設内外、遊具等の定期点検は行い、危険な箇所は早急に修繕するなどして安全管理に努めた。特定のみだけでなく、全職員の多くの目で確認する体制を作り、子どもたちを危険

から回避できる安全管理を強化させていきたい。

- ・様々な状況を想定した避難訓練の計画と実施に努めた。
- ・ヒヤリハットについては小さなミス、小さな気づきを教職員間でしっかり情報共有し、繰り返し起こさないよう日々危機管理意識を向上させていきたい。
- ・個人情報管理と漏洩防止の徹底。守秘義務の徹底を図る。

IV 「人事管理」についての評価結果及び改善策

- ・次年度も教職員が働きやすい風通しの良い環境づくりを努めていく。
- ・子どもたち全てに分け隔てない同様の関りがもてるような職員育成に努める。
- ・保育時間を充実させるために少しずつ業務の改善を行っている。まだ不十分なところはあ
るため、今後も継続していく。
- ・子どもの実態に合った効率良い人員配置を行っていく。

V 「財務管理」についての評価結果及び改善策

- ・今年度は2号園児定員枠を広げたが、入園希望者は多数おり、お断りせざるを得ないケ
ースもあった。1号園児獲得が本当に困難という中で、今年度も認定園児定員が満たされ
ず、財政難はまだ解消されていない。同時に、今年度前半は0歳児入園がなかったこと
も厳しい状況をもたらす結果となった。市内大半の園が4か月受け入れに対し、当園では6
か月からの受け入れで、この少子化の真ただ中にありながら大きく出遅れてしまってい
ることから、改善策として、次年度より4か月からの受け入れに踏み切ることにした。
- ・園児獲得を図りながら、職員体制の適切な配置整備もしていく。
- ・今年度目標“無駄を省く（ICT推進＝紙媒体削減、ごみ削減、節電、再利用で環境保全に貢
献、節約）”についてはかなり努力したが、まだ改善の余地も感じている。

VI 「評価と情報の公開」についての評価結果及び改善策

- ・学校評価は第三者評価を受け、ホームページ上に公開する。
- ・地域に開かれた施設、地域に選ばれる施設、利用者のニーズに可能な限り対応する施設を
目指す。
- ・保護者アンケートは概ね好意的なご意見が多かったが、2号園児受け入れや預かり保育、
行事参加に関わるご要望も多数あり、課題はまだ多い。
- ・園の理念について保護者への丁寧な説明と丁寧な保育を行い、より理解を深め協力してい
ただくことも必須と考える。